

小学校第4学年 社会科（学校図書館教育）学習指導案

期 日 平成24年10月10日（水）第5校時

場 所 合志市立西合志東小学校 図書室

指導者 教諭 奈須 勝

1 単元名

「水はどこから」 ～水をむだにしないくふう～ 教育出版 下 p 74～p 75

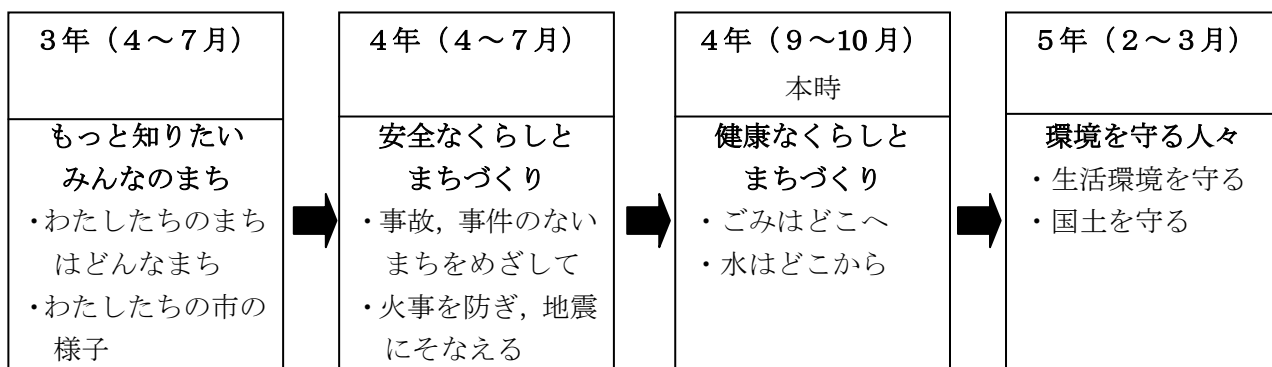
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第3・4学年の目標（1）「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」及び（3）「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」とその内容（3）のア「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」イ「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を受けたものである。

本単元では、内容（3）のイに重点を置いて授業を構成する。特に、内容（3）の取り扱いについて「節水・節電などの資源の有効な利用」においては、飲料水や電気をつくるために必要な資源には限りがあること、飲料水や電気、ガスなどの無駄な使い方を見直し有効に利用することが大切であることに気付くようにするなど多角的・多面的に考える活動を通して、自らも節水や節電に協力しようとする態度を育てることができる単元であると考え。

(2) 系統観

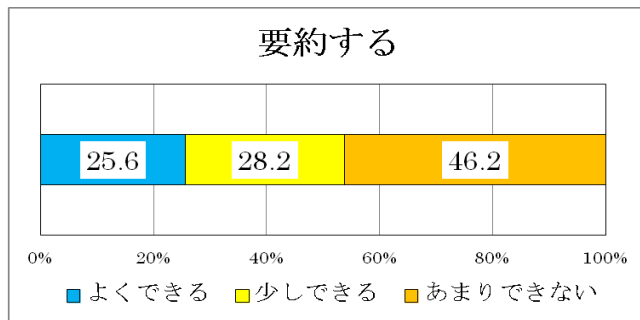
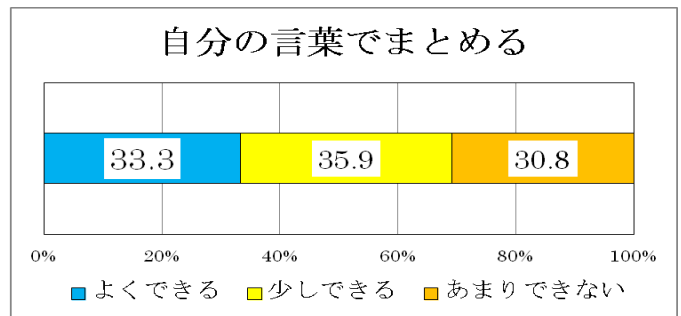
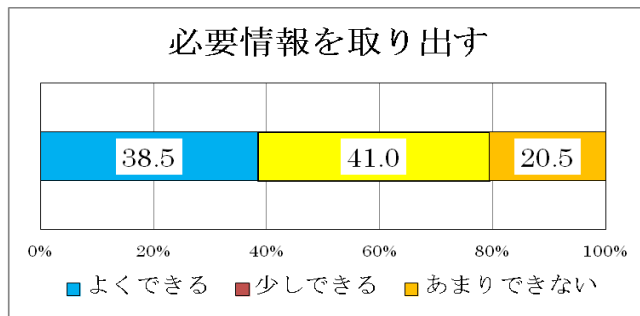
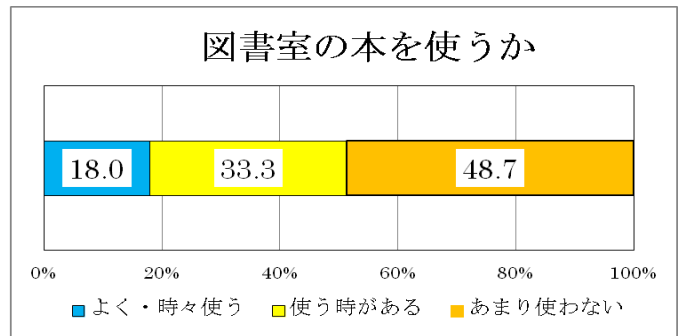
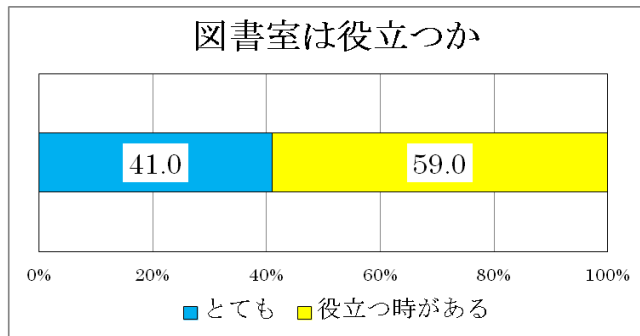


(3) 児童観

本学級は、男子21人、女子18人計39人の学級である。児童は、これまで「安全なくらしとまちづくり」の中の『事故・事件のないまちをめざして』や『火事をふせぎ、地震にそなえる』の学習において、課題解決型の学習を行ってきた。資料から課題をもち、課題に対して各種資料をもとに解決していく学習は行ってきたが、社会的事象を多面的に見ていくことに課題があり、一元的な見方で終わったり、資料をそのまま書き写した発表で終わってしまうことがあった。また、言語活動としてポスターセッションに取り組んできたが、資料を単に読み進めていくだけで、そこに自分の考えを入れて発信することなどは十分とはいえない。

7月、情報活用能力に関する児童の実態調査を行った。結果は以下のとおりである（一部抜粋）。

【実施日：平成 24 年 7 月 18 日，調査人数男子 18 人，女子 19 人 計 39 人】



アンケート結果から、半数近い児童が日常的に図書室を利用していることが分かる。また、必要な情報を図書資料から取り出すことでは約 8 割の児童が「できる」と答えている。しかし、課題解決に必要な情報を収集し、書かれている内容をまとめたり要約したりすることに苦手意識を感じている児童もあり、他教科と連携した取り組みの必要性を感じる。

(4) 指導観

- 導入時に、既習事項（東小・合志市での一日の水の使用量）を活用しながら、学習意欲を引き出すようにしていきたい。
- 児童の追究意欲を引き出し、継続していくために、魅力ある学習課題を設定していきたい。
- 図書室の資料を使って調べる際の参考になるように、関係のある図書資料を準備していきたい。また、国語科で学習した「本の分類と図書館の配架」について確認をしておきたい。
- 多面的・多角的視点から課題を追究していくために、事前にゲストティーチャー（市水道局・保護者・お店の方々）との確認調整を十分行っておきたい。
- 資料から分かること、考えられることをしっかりと出させるために、一人学びの時間を十分に確保したい。
- 各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったことを的確に記録し、比較・関連・統合しながら再構成する学習や、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていくための言語活動などを取り入れていきたい。また、その際、個人の考えを生かしながら学級全体で話し合いを行わせ、社会的事象について多面的に考えていけるようにしていきたい。

Cプロジェクト 情報活用能力育成の視点から

- 課題解決において、図書資料を使用する際は、国語科で習得した「本の分類と図書館の配架」を活用していくようにする。また、学校図書館職員と効果的な連携を図り、児童が主体的に情報収集を行っていくことができるようにする。
- 情報収集の一方法として、ゲストティーチャー（合志市環境衛生課・上下水道課）を活用する。このことについては、事前にきめ細やかな打ち合わせを行っておく。例えば、資料を提示しながら児童へ読み聞かせしていただく場合など、児童に分かりにくい難解な用語等は平易で簡潔な語句を使って説明をしていただく。
- 調べたこと・インタビューしたことをメモにとりやすいようにシートの工夫をするとともに、国語科等各教科でもメモの取り方、まとめ方について指導を行う。
- 自分の考えを発信することについては、情報の単なる伝達ではなく、知り得た情報から思考・判断したことを踏まえた内容になるよう日常指導の充実を図る。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	①日常生活から出る廃棄物がどのように処理されているのか、また、自分たちの飲料水がどのように提供されているのかについて調べることを通して、廃棄物の処理と飲料水の確保が地域の人々の生活に不可欠であることや、これらの事業が計画的、協力的に進められていることを理解させ、地域社会において健康で良好な生活の維持と向上に主体的に取り組むことができるようにする。 ②各種施設などで見学やインタビューを行ったり、地図などの資料を活用したりして調べ、地域の人々の願いや努力を知るとともに、自分たちにもできることなどについて考え、発信することができるようにする。
社会的事象への関心・意欲・態度	①飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べている。 ②地域社会の一員として節水（省エネ）、ごみの減量や資源の再利用などの取組に協力しようとしている。
社会的な思考・判断・表現	①飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業について、学習課題や予想を立てたりしながら、学習計画を考え表現している。 ②飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることについて自分たちの生活と関連づけながら考え適切に表現している。
観察・資料活用の技能	①施設・設備などを観点に基づいて見学・聞き取り調査を行ったり、地図や統計などの資料を活用したりして、飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業について、必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを白地図や作品などにまとめている。
社会的事象についての知識・理解	①飲料水の確保やごみの処理と自分たちの生活や産業とのかかわりについて理解している。 ②飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業は、計画的、協力的に進められていることを理解している。 ③飲料水の確保やごみの処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
情報活用の実践力	①課題解決する際の図書資料を自ら探し、必要な情報について要約している。 ②ゲストティーチャー等から得た情報をシートに箇条書きするなどの方法で、分かりやすくまとめ、考えたことを発信している。

4 指導・評価計画（20 時間扱い）【17／20 時間中】

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ※Cプロジェクトの視点から	評価基準（評価方法）
1	1	①自分たちが毎日多くのごみを出し、水を使っている経験から、ごみ処理や水について調べる意欲をもつ。	・日常生活でごみが出たり水を使う場面を想起したりして、追究意欲を高めていくようにする。	関心・意欲・態度① （観察） 自分の生活の中で出るごみの種類や水道水を使っている場面について意欲をもっている。
2	1	①家庭から出るごみの量を調べ、分別のきまりや処理の仕方に関心を持ち、調べる。	・家庭から出るごみの種類や量を調べ、ごみの多さに気付かせ、きまりや処理の仕方に関心をもたせるようにする。	技能① （観察・シート） 家庭から出るごみの量や種類について、調べたことをシートにまとめている。
	1	②ごみの出し方や収集の工夫について調べ、ごみが種類別に施設へ運ばれていることを知る。	・ごみ収集についてのパンフレットや、収集係の人への聞き取りから、工夫やきまりなどに気付くようにさせる。	知識・理解② （ノート） ごみの収集の工夫やきまりについて理解している。
	2	③④燃やすごみの処理施設を調べ、衛生のための努力や工夫に気付く。	・施設のハード面（設備・機械など）だけでなく、ソフト面（人の動きや作業の工夫）、におい・音などにも注意させる。	技能① （観察・シート） 調べたいことを見学やインタビューを通して的確にメモにとっている。
	1	⑤資源ごみの処理施設を調べ、リサイクルや再使用が行われている様子に気付く。	・原料に戻してから製品をつくるリサイクルと洗浄・再使用との違いを、具体例を示してとらえさせる。	知識・理解③ （ノート） 資源ごみなどのごみの処理の仕組みについて理解し、さまざまな工夫や配慮がされていることを知っている。
	1	⑥埋め立て処分場について、他地域との協力のもとに計画的に設けられていることから、ごみ処理の問題点について考える。	・最終処分場があと何年で満杯になるか、1年でどれくらいの量の焼却灰が運ばれてくるかなど、具体的な数値を示しながら考えさせる。	思考・判断・表現① （ノート・発言） 調べたことをもとに、ごみ処理の現状や問題点について考えをもっている。
	1	⑦ごみの量や処理費用、施策の変化を調べ、生活の変化との関係に気付く。	・教科書の「学びの手引き」を参考に、グラフの読み方を再確認させ、適切にグラフを読み取らせる。	技能① （観察・ノート） ごみの量や処理費用が変化してきていることを、グラフから適切に読み取っている。
	1	⑧商店や工場におけるごみ削減の取組を調べ、それぞれの場所での工夫や努力について考える。	・商店や工場の写真を準備して提示し、児童の気づきを促すようにする。	関心・意欲・態度① （観察） 商店や工場におけるごみ削減の取組を調べ、それぞれの場所での工夫や努力について考えようとしている。
	1	⑨市民によるごみを減らす活動を調べ、ごみを減らすことの大切さに気付く。	・ごみ処理の流れと、ごみ減量化に取り組む人々のかかわりを簡単な相関図に示すなどして理解させる。	知識・理解① （ノート） 他機関ともかかわりながら、ごみ減量化に取り組んでいることを理解している。。
	1	⑩調べて分かったことや考えたことをもとに、ごみを減らすために自分たちにできることを考える。	・既習事項や日常生活を振り返るとともに、ゲストティーチャーや他の児童の意見を聞いたりして自分なりの考えをもたせるようにする。 ※図書資料を探したり、ゲストティーチャーへの聞き取りを行い、シートにまとめていく。	思考・判断・表現② （ノート） ごみを減らすために自分にできることは何かを考え、書いている。 【情報活用の実践力①②】 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ※Cプロジェクトの視点から	評価基準（評価方法）
3	1	①家庭や市の水道使用量などから特色や仕組みに関心を持ち、学習計画を立てる。	・調べて分かった水の使用量を2Lのペットボトルでは何本分になるか視覚的にとらえさせる。	関心・意欲・態度① （観察） 自分たちが使っている水について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
	1	②学校の水道の水の通り道について地図を見ながら確認する。	・自分たちの学校から水の流れの経路をさかのぼり、途中やその先に何があるのかを気付かせる。	技能② （白地図） 水道水の経路を各種資料を使って、白地図に書き込むことができる。
	1	③浄水場の仕組みやそこで働く人々の工夫や努力について知る。	・見学の記録や資料から読み取れたことを確認しながら、気付いたことや分かったことを話し合わせる。	知識・理解③ （ノート） 浄水場における水処理のおおまかな仕組みや、働く人たちの工夫や努力について理解することができる。
	1	④ダムや水源林を調べ、その仕組みやはたらきをとらえ、計画的な水道事業が行われていることを知る。	・聞き取ったり、調べたりして分かったことをノートにまとめさせる。	知識・理解② （ノート） ダムや水源林のはたらきを理解し、それらの整備が計画的に取り組まれていることを理解する。
	1	⑤水源林の保護に努めるボランティアや県の活動等を調べ、水源を守るための人々の努力に気付く。	・荒れた森林の写真と手入れされた森林の写真を見比べて、その違いに着目させるとともに、具体的な取組をノートに整理させる。	知識・理解③ （ノート） 水源を守るために、ボランティアの人々や県が計画的な取組を行っていることを知る。
	1	⑥かぎりある水を使い続けるために、自分たちにどんなことができるか考え、伝え合う。	・G Tへの聞き取りや図書資料から必要な情報を集め、それらの情報をもとに自分なりの考えをもたせる。 <u>※図書室で必要な図書資料を探したり、ゲストティーチャーへの聞き取りを行い、考えをシートにまとめていく。</u>	思考・判断・表現② （シート） 調べたことをもとに、水を守るために自分にできる取組について考えている。 【情報活用の実践力①②】 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
	1	⑦廃水のゆくえを調べ、再利用されたり、施設で処理されたりしていることに気付く。	・児童の発言の中から、水が循環していることを考えるきっかけとなるものを取りあげ、着目させる。	知識・理解② （ノート） 廃水を処理する下水道の仕組みを理解し、水が循環していることを理解する。
	2	⑧⑨水道の仕組みや、水が循環しているといった既習事項をいかして、新聞を創る。	・学校の人みんなに広げようことを意識して、分かりやすくつくっていくようにパンフレット等を提示する。	技能② （作品） 関心・意欲・態度② （観察） 飲料水について学習したことをいかしてイラストなどを用いて、分かりやすくまとめている。

5 本時の学習

(1) 目標

水を守るための取組について、図書資料やG Tへのインタビューをもとに、伝え合う活動を通して、地域社会の一員として自分なりの考えをもつことができる。

(2) 評価基準

「思考・判断・表現②」（観察・シート）

（A基準）調べたことをもとに、水を守るために地域社会の社会的事象の特色や相互の関連をもとに自分にできる取組について考えている。

（B基準）調べたことをもとに、水を守るために自分にできる取組について考えている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価 ※Cプロジェクトの視点	備考
つかむ (3)	1 学習課題を知る。 【一斉】	○今日のめあてを読みましょう。	○児童の追究意欲を高めるための学習課題を設定し、提示する。	FC
	見つけよう！ 水を守るための取り組み			
追究する (35)	2 図書館内で分かれて調べる。 【個】 ○学習の進め方を知る。 合志市では、雨水の利 用をしていると聞い たけど・・  家庭 合志市 県・国 お店	○今日の学習の進め方について説明します。 ○それぞれの場所では、水資源を守るために、どんなふうや取組をしているのか本やインタビューして調べてみよう。 ○調べて分かったことを分かりやすくメモをとりましょう。	○関係のある図書資料の一覧をWBに提示しておく。 ○GT（市環境衛生課・上下水道課）の方々には図書室の一カ所に待機していただく。 ○学校図書館職員の先生には、図書資料を探す際のアドバイスをしていただく。 ○より多くの工夫について調べ、聞き取りができるように、時間を十分確保する。 ○調べる中で、分かったことをシートに記入させるとともに、発表に向けて内容の要約をする。 ※課題解決に必要な情報を多角的視点から収集させる。 ※収集した情報を分かりやすくまとめさせる。	WB シート
	3 調べたことをもとに発表する。 【一斉】 山に木を植えて、地下水を守っているそうだよ。  合志市では、雨水をためるための取り組みをすすめているそうです。 ○話し合ったことをもとに、自分の考えを書く。	○調べて分かったことを発表していきましょう。 ○付け加えがある人はいますか？	○児童から出された工夫や取組については、観点ごとに整理しながらWBに板書していく。 ○調べたことの発表で終わらせるのではなく、そこで、自分なりに考えたことも出させるようにする。 【評価：思・判・表（観察・シート）】 B：調べたことをもとに、水を守るために自分ができる取組について考えている。 〈B基準に達しない児童への手立て〉 ・出された考えを整理し、視点をもって考えられるようにする。	WB
まとめる (7)	4 学習のまとめをする。 【一斉】	○今日の学習の振り返りをしましょう。	○学習の振り返りを通して、地域社会の一員としての自覚をもたせるようにする。	シート